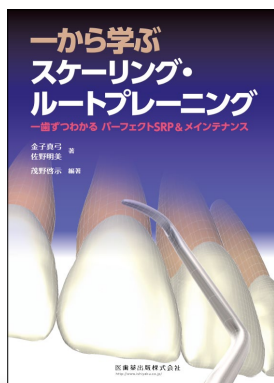


ずっと活用できる  
待望の SRP バイブル！



一から学ぶ  
スケーリング・ルートプレーニング  
一歯ずつわかるパーフェクト SRP & メンテナンス  
金子真弓・佐野明美 著 茂野啓示 編著  
A4判/190頁 定価：本体 5,500円＋税  
医歯薬出版（2016年10月）

愛歯技工専門学校名譽校長  
評・桑田正博（歯科技工士）



「模型上では色も形も完璧ね。でもマサヒロが作ったクラウンに“生命”を宿らせるのは、健康な周囲組織との生物学的なかかわりなのよ！」——これは1963年、Dr. S. S. Wagon（米国・フィラデルフィア開業の著名な歯周病専門医）の診療室に勤めていた歯科衛生士から、渡米後間もない私が作ったクラウンを前にして言われた一言だった。この言葉がなかったら、私が“Emergence Profile”<sup>\*</sup>を言語化することも、歯科衛生士と歯科技工士とのつながりを意識することもなかったと思う。

歯根から歯冠への移行形態が生物学的に適正であり、適切なプラークコントロールにより歯周組織の健康が長期にわたり維持されてこそ、治療の成功はもたらされる。本書は、私が思い描いていた念願の書籍であり、最終章まで一気

にページをめくった。

序文の冒頭に「メンテナンスを目的に歯科医院に来院する患者が増えている……それに伴い歯科衛生士の役割が大きくなる」とあり、読み進めると、「適切な器具の選択とその手技は？」と書かれている。歯周組織を破壊する最大の原因はプラークの蓄積によるもので、歯科疾患の最大の理由が、そこに生じる細菌によるものといわれている。歯科衛生士の資質が問われるところであると思う。それは“適正な作業姿勢と指使い”によってバランスよく把持されたキュレットの機能部が歯面を適正にフォローしなければならないことを意味する。SRPのみならず、歯科治療の要となるのは、「歯の形態を知ること」であり、本書序文ではそれを「Back to the basics」の言葉に集約している。

Appendix(付録)の「臨床で生きるQ & A」、最後のQ17は「歯科医師との連携がうまくとれません。どうすればよいですか？」で、その解答も明解に示されている。この章を読むことにも絶大な価値があると思えた。

本書を手にした際はまず、位置・形態に応じた各歯のSRPワークを徹底的に見る化したI編「SRP Complete Graph 目で見てわかる！ できる！ SRP徹底分析」と、II編Part 1「ポジショニング」の項で基礎を復習してから、あらためて全ページに“page by page”でじっくり目を通すことをお勧めしたい。

患者を中心に据えて、それぞれの専門性を発揮するというコンセプトに基づくチーム治療およびメンテナンスを行っていただくために、ぜひ本書を座右に置いて治療時の場面、場面で役立てていただきたく思う。

<sup>\*</sup>Emergence ProfileとはR. S. Stein、桑田によって提唱された用語で、天然歯・補綴装置の歯肉溝内から遊離歯肉頂または歯頸部1/3付近までの立ち上がり形態を指す